



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

平成 30 年度 第 2 号
平成 30 年 5 月 1 日 (火) 発行
さいたま市立宮原中学校
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp

一流の中学生になろう

校長 松井 聡

5月になり、吹く風も爽やかになってきました。新年度が始まってほぼ1ヶ月、新しい学校生活にもようやく慣れてきた時期です。

私自身もこの1ヶ月の生活から、宮原中学校の素晴らしい点をいくつも感じる事ができました。まず、全校の校歌の歌声は本当に感動です。一日のスタートの朝読書は、全校が静寂の中、どの学年のどの学級も黙々と読書に取り組み、落ち着いた一日の出発点になっています。その他にも生徒の明るく爽やかなあいさつも本校の誇るべきことです。体育祭に向けての練習、放課後や朝の部活動も活気にあふれて充実したものになっています。特に3年生、上級生が素晴らしい。朝礼や集会等での集合や話を聞く態度もとても立派です。私は常々良い学校の第一条件は「先輩が後輩の良い手本になれること」だと思っています。本校には良い伝統が色々と根付いています。

本校では、目指す生徒像として「凡事一流に行動できる生徒」を目標としています。では一流な中学生とはどんな中学生でしょうか。1番ではありません、「一流」です。1番はたった一人しかいないので、1番になることはとても難しいです。1番になろうと一生懸命努力をしても、2番や3番、いやいや、むしろ入賞も出来ずに終わってしまう人がほとんどかもしれません。しかし「一流の中学生」には定員がありませんから、努力さえすれば、誰でもなることができます。皆に愛された SMAP の名曲「世界に一つだけの花」の歌詞にあるように、ナンバーワンにはなれなくても、オンリーワンの「一流の中学生」になることは、宮原中生の誰もが実現可能です。

凡事とは、当たり前のことという意味です。パナソニックの創業者である松下幸之助氏は、取引先の企業を訪問したときに、販売高や利益額とかの数字を見なくても、その企業の経営がうまくいっているかどうかを瞬時に見抜いたそうです。松下氏の評価規準は至ってシンプルで、「従業員のあいさつ」「整理整頓」「トイレの掃除」の三つがしっかりしているか・・・であったそうです。この三つをみれば、その会社の経営状態が良いか悪いか大体の様子は判るし、実際その通りであったそうです。「当たり前のことをおろそかにしていないか」ということが、企業安定のバロメーターであるということを示しています。立派な仕事をするためには、何も特別なことをするのではなく「当たり前のことをいかに当たり前に、徹底してできるかにかかっている」ということだと思います。

さわやかな挨拶ができる、校歌を大切にする、靴のかかとをそろえる、しっかり清掃する、時間を守る、思いやりのある言葉をかけられる・・・宮原中生の6つの行動目標こそ、一流の中学生になるための当たり前のことそのものだと言えます。これら一つ一つは、だれにでも少しの努力でできることばかりです。しかし、毎日徹底して続けていくとなると非常に難しいことばかりです。毎日毎日辛抱強く、これらを着実に積み上げていけばとても大きな成果となります。

950人の全ての宮原中生が、一流の中学生となれるよう頑張っていきましょう。